

稲敷市立中学校部活動地域連携・地域移行方針について

稲敷市教育委員会
学務管理課

1. 部活動を取り巻く状況

- 市内4中学校で部活動部員数は減少傾向、生徒数に関しても市内全体の人口減少に比例する
- 部活動加入生徒数の減少が加速し、学校により部活動数を削減、一部学校は顧問が兼部する
- チームスポーツを中心として大会参加は他校と合同で出場するチームがあり、中には美浦村立中学校と合同で「稲敷市」「稲敷郡」として参加する
- 部員数の減少、人数不足により練習環境が整わない部活がある
- 部活動数の減少により、スポーツ、文化芸術活動の選択肢が減少

2. 部活動加入状況(加入人数)

参照：令和6年度部活動実施状況調査結果

年度	生徒数	部活加入数	加入率
令和4年度	812	693	85.3%
令和5年度	790	658	83.4%
令和6年度	732	612	83.6%

〔運動部活動〕野球、サッカー、陸上、ソフトテニス(男女) バスケットボール(男女) 卓球、女子バレーボール、剣道、柔道、

〔文化部活動〕吹奏楽、美術

3. 稲敷市の現状の取り組み

稲敷市には中学校4校が東西に2校があり、過去に小学校の統廃合を実施し教育環境の整備を進めてきた。しかし、少子化の進行により1学年1学級の学校や複式学級が増加する見通しで、教育委員会は学校再編の検討を開始している。



- 令和元年8月「稲敷市部活動の在り方に関する活動方針」策定
- 令和4年3月 要綱の策定・令和4年4月施行開始
- 令和4年9月 検討委員会の設置

令和元年8月に「稲敷市部活動の在り方に関する活動方針」が策定され、部活動指導員等の任用・配置を踏まえた定期的な研修の機会を設ける取り組みを実施。部活動の地域移行においては、令和4年に「稲敷市部活動検討委員会」が設置され、市内中学校部活動の在り方に部活動の円滑な運営及び教員の負担軽減を図るとともに、地域移行方針の策定を進めている。

4. 今後の方向性

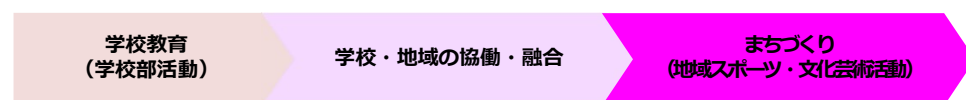
＜国＞地方公共団体が幅広い関係者の理解と協力の下、平日・休日を通じた活動を包括的に企画・調整し、多様な選択肢の中から地域の実情等にあった望ましいあり方を見出し、改革の方針を決定することが重要(生徒・保護者等への丁寧な説明も必要)
改革実行期間 前期：令和8年～10年度 後期：令和11～13年度

＜県＞令和5年度より地域移行の取り組み開始、まずは休日の地域クラブ活動の環境整備を着実に進める・地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指す

＜市＞稲敷市においては、休日の学校部活動について、令和8年度からは地域クラブとして活動していくよう、団体スポーツを中心に移行を進める。今後移行していく地域クラブと指導者の確保を進めていく

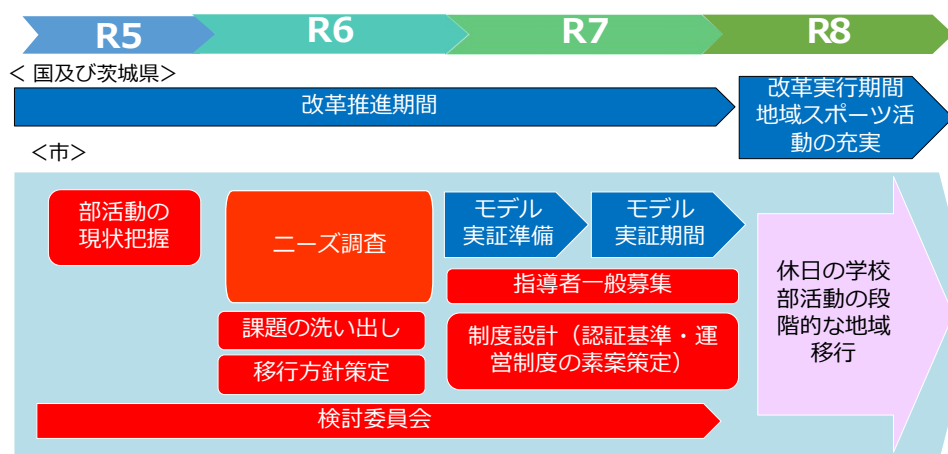
5. 稲敷市の学校部活動の将来像(目指す姿)

- 学校部活動の地域スポーツ・文化芸術活動への移行の流れ



- 地域クラブの受け皿の確保
 - ・今後受け皿となる地域事業者/団体を決める
 - ・稲敷市地域クラブが参加する、指導団体がもつべき資格基準を定義する
- 持続可能な地域クラブの運営
 - ・運営形態イメージは「競技団体連携型」として市区町村が競技団体と連携する
 - ・市区町村運営型として事務局から指導者を派遣して、自身の指導する種目を運営する
 - ・新規/既存団体運営型として、費用徴収や指導者の確保などの全般を独自に行い運営する
- 保護者の費用負担の軽減
 - ・市区町村運営型、新規/既存団体運営型、それぞれのタイプで費用徴収を実施する
 - ・稲敷地域クラブが参加する、指導団体がもつべき資格基準を定義するもの

6. スケジュール



(取組内容)

- 推進計画策定のための実態調査(生徒/保護者、小中学校教職員、地域事業者/団体)
- 地域移行対象の種目選定、実証可能な種目の選定、必要な指導者、受け皿団体の把握